第２幕

ケダモノの声だけが遥か遠くに聞こえる
捨てられた「大地の思想」とやらを
その復権を声高に叫んでいるらしい

疑いようのない「沈黙の春」が来ようとしている
見知らぬ顔のタンポポが咲き乱れ
新たな進化の実験が繰り広げられる

　　我々には克服するための科学がある
　　実験結果からは多くのものを得るだろう
　　神を超えた存在としての威厳を示せ

力でねじ伏せることを意図し
為政者が焦燥の中で喚き続けると
あのケダモノの声と交差する―――

　　政府があるのだ
　　社会があるのだ
　　都市があるのだ

巡礼者たちはこぞって押し寄せる
空中分解した階級秩序の中で、絶望は許されず
ただ、祈ることしか残されていない

密かに謀略をめぐらす変異ウィルスは
侵略のために、あらゆる物質を取り込み
細菌内部へと進出を開始している

　　歴史をこの手に握ること

進化を操ること
それ以外に意味のあることなど存在しない

今や、抜け駆けを狙うことだけが有効だ
共同体などという概念は妄想だ
見ればわかるとおり、それが生命の本質なのだ

都市住民よ、街を捨てるがいい
路地裏までデマゴーグの染み付いた街を
今すぐ捨てるがいい

恐怖など既にない
カラスが私を追いかけてくる
お前が待っているものを知っている

(2012.4.22)